

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム南濃 「福寿苑」
(ユニット名)	東ユニット
所在地 (県・市町村名)	岐阜県海津市南濃町松山字四番代426-1番地
記入者名 (管理者)	岩永 知子
記入日	平成 21年 2 月 19 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域の中で、その人らしく生活することを支えるケアのイメージを持ち、今後理念を見直していきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		左記の継続やタイムカード付近など目に留まるところに理念を掲げることで、意識統一を図っていきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ホーム便りを作成し、地域の方々に読んで頂き、グループホームを身近に感じて頂けるよう取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		自治会との交流を深め、信頼関係を築いていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会行事に参加したり、保育園の園児を今後も招くなど、交流を図っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の時に 自治会、民生委員の方へ何か役立てる事があるか声かけをしている		少しでも実践できることがあれば、取り組んでいきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施する意義を話し合い、改善できる点はないか積極的に取り組む		今回出される外部評価の結果を、会議などで職員全員に報告し、改善に向けて話し合っていきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所報告書を作成し、サービスの状況を伝えると共に 参加メンバーから質問や意見、要望を聞き、取り組めることから実行 している		定期的に運営推進会議を行い、出された意見をサービスの向上 に活かしていけるよう積極的に取り組んでいきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の介護認定調査などで来て頂いた時などに、事業所のサービス状況について、話をしたり、相談したりしている		市町村担当者が変わっても、関係づくりを積極的に行い、協働関係を継続していく
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、実際利用された利用者がみえた為、学ぶ機会があったが、知識としては乏しい		今後、制度を必要とする利用者がみえた時に対応できるよう、管理者、職員ともに知識を深めていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、見過ごされないよう 日々のサービスを提供する中でケアを見直し、防止徹底に努めている		身体拘束廃止などの研修に参加し、職員間でも勉強会などを開くなど、防止に努めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時などには、利用者、家族等の不安や疑問点を尋ねながら説明を行い、その場で少しでも不安をとりのぞけるようにしている</p>	<p>契約後でも利用者や家族の不安、疑問点などにはすぐ対応できるよう、個別ケアについても説明を行い、安心して生活していただけるよう配慮や取り組みをしていきたい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置したり、苦情、不満はすぐ相談して頂けるよう、日頃より声かけを行うなど信頼関係づくりに心がけている</p>	<p>苦情などあった時は、すぐ会議などで職員全員に伝えたり、利用者本位のケアを行えているかどうかを見直していきたい</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態の変化については、電話または面会時に報告し、家族と連携を図っている。生活状況、職員の異動等は、運営推進会議で報告をしている</p>	<p>家族が面会に見えた時などに生活状況、健康状態を報告できるよう情報を把握し、管理者スタッフ側より声かけを行い、伝えていけるように心がけていきたい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族へはどんな些細な事でも相談して頂けるよう、又、外部にも相談できる窓口があることを伝え、少しでも多くの意見が聞かれるよう雰囲気づくりに努めている</p>	<p>家族が意見や苦情を言いやすい雰囲気づくり、信頼関係づくりに心がけていきたい</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図り、職員の意見や要望を聞くようにしている</p>	<p>職員から聞かれる意見は貴重な現場の声である為、コミュニケーションを大切にし、意見に耳を傾けていきたい</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況に応じて、早番などの勤務調整や、外出支援時に余裕をもった人数の調整を行っている</p>	<p>状況に応じて、柔軟な体制がとれるよう取り組んでいきたい</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は、最小限に抑えるよう考慮してもらっている。顔馴染みの職員によるケアを行っている</p>	<p>利用者へのダメージを防ぎ、異動がやむ得ない場合でも、その時期や引き継ぎ時期を考慮していきたい</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修への参加に対して、奨励している		研修を受けた者は会議で報告している 学んだ内容を職員間で共有し、技術や知識の向上を図っていききたい
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を開く時は地域の同業者へも連絡を行い、又、他施設で行われる場合は、連絡を頂き、学習を一緒に行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる		地域で行われる連絡会や勉強会などには積極的に参加し、同業者と交流する機会を持つ事で、サービスの質の向上を目指していききたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	交替で休憩をとり、気分転換を図っている		職員の疲労やストレス、悩みについて把握するよう、努めていききたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場での職員の努力している姿に 励ましの声をかけてくれている また 資格取得を応援し 手当をつける等 向上心を持って働ける環境づくりに努めている		職員一人ひとりが 向上心を持って働ける環境づくりに 努めていききたい
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前にはなるべく本人と面談し、本人がおかれている状況を理解 安心して入所される様、努めている		事前に本人と面談し、話を傾聴、不安や思いを理解するよう努めていききたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思い、不安や要望などをしっかりと聴き、また当ホームのシステム等説明し、安心して利用されるよう努力をしている		家族の要望を理解し、当ホームでどのようなサービスが出来るのか 話し合っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを理解し、信頼関係を築きながら他のサービス利用も検討している		他のサービス内容を把握し、出来る限り対応・調整を行っていききたい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が事前に訪問・見学の際は、本人の趣味や嗜好等聴き徐々に人・環境に馴染んでいく様に工夫している		安心して入所されるよう配慮し、調整していききたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話を聴き、時には相談にのってもらい、共に支えあえるよう努力している		人生の先輩であるということを常に意識し、共感を持ち支えあっていききたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にこれまでの状況や思いを聴き、共に本人を支えていける様、努力している		一緒に本人を支えあって行ける様、良好な関係を築いていききたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	あらかじめ行事等の連絡し、一緒に参加できるような機会を作っている		家族が来訪時等、一緒にゆっくり過ごす時間や場所に配慮していききたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人に会いに行ったりできる様、電話、手紙等連絡をとりもっている		一人一人の生活習慣に配慮していききたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係、一人一人の性格や趣味を把握し、日々の変化の情報を職員間で共有するよう努めている		利用者同士の関係が円滑になるよう努力していききたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても相談をうけたりフォローしたり、関係を継続している		利用中に培った関係を大切にし、継続的にフォローをしていきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の思いやアプローチを察する様、努めている		これからも表情、行動などから思いを汲み取るよう努めていきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と馴染みの関係を築きながら、少しずつ聞き取る様に努めている		今後も把握する努力を続けたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活のリズムを記録し、職員全員が把握できる様、努めている		本人の出来る事など生活の中で発見し、支援していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞き、職員間で意見交換、モニタリングをしている		今後も継続していきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の身体機能の低下時など介護計画の見直しの際は、本人、家族の要望を取り入れ検討を行っている		その都度、関係スタッフと連携をとり、検討、見直しを行っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や実践したケア等記録に残し、交代時は申し送りを徹底 情報の共有に努めている		職員全員が現状を把握、情報共有するために記録の徹底を図りたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院、外出、外泊の支援を行っている		本人、家族の要望に応えられる様、馴染みの関係を大切に、支援していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議で民生委員と意見交換を行うことで、利用者が安心して地域での生活が送れるよう呼びかけを行っている		外出支援やイベントを行う時は、ボランティアの方々にも呼びかけを行う 又、図書館等地域資源を今後活用し、普段からの連携を図っていきたい
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて、市内の温泉を利用させて頂いている		必要に応じて、生活支援に結びつくサービスを受けられるよう支援していきたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが中心となっているケアマネージャー会議に参加することで、周辺情報や支援に関する情報交換を行うようにしている		会議以外でも 地域包括支援センターと協働していきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続な医療が受けられるよう、又、状況に応じて本人や家族が希望する医療機関にて、診察が受けられるよう支援している		本人や家族の希望を大切に、適切な医療が受けられるよう複数の医療機関と連携を図っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師とは連携はとれていないが、相談や診断治療等の対応が必要となった場合は、主治医が相談と連携、精神科受診など適切な治療が受けられるよう支援している		今後も左記の内容に取り組んでいきたい
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、日頃の健康管理や状態変化に応じた支援を行うよう、又、看護師不在時でも介護職員と看護師は連携し、助言対応ができる体制を整えている		看護師と介護職員間とで信頼関係を密にし、気軽に相談し合えることで、迅速な対応ができるよう心がけていきたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には 入所サマリーにより利用者の情報提供を行い、少しでも安心して過ごして頂けるよう、見舞い、声かけを行っている また病院関係者と情報交換を行い、事務所内で対応可能な段階で早く退院できるようアプローチしている		今後も左記の内容に取り組んでいきたい、
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認し、状況変化のたびに家族、主治医を交えた話し合いを繰り返し行い、支援につなげている		重度化や終末期に向けて、本人、家族、医療機関で話し合った 結果を方針とし、職員全員で共有しながら対応していきたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向をふまえ、安心して納得した最後が迎えられるように、随時意志確認をしながら取り組んでいる 急変時には、すぐ対応して頂けるよう 医療機関とも連携を図っている		重度化や終末期に向けて、事業所として対応できる支援について話し合い、チームケアに活かしていきたい
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続が損なわれないよう、情報提供を行い、ダメージが最小限になるよう努めている		今後も左記の内容に取り組んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に言動に注意し、会話、声かけを行っている	個人情報、プライバシー保護等を職員が常に意識する様、取り組んでいきたい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は自分の意見を押し付けず、一人一人の意向を引き出し、答えを待つ姿勢を心がけている	利用者が自己決定できる機会を、支援していきたい
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、散歩や外出、レクなどの支援をしている	一人一人の思いや状態に配慮し、柔軟に支援していきたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族の協力の元、馴染みの美容院に外出したり、気心の知れた美容師の来設等本人が安心できる支援を行っている	本人の意向を取り入れ、必要な時には手助けができるよう支援していきたい
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の献立を相談したり下準備の手伝いや片づけ等、できる事を一緒に取り組んでいる 食材や調理方法は本人の好みに合うように工夫している	本人の体調を考慮し、前向きに意欲が持てる場面を作っていくたい
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調を考慮して、家族からやの差し入れや嗜好品を楽しめるよう支援している	一人一人の好みや意向を大切にしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄状況を把握し、トイレで排泄できるよう、その人に合った支援をしている		一人一人のサインにすぐ職員が対応できるよう把握し、支援を続けていきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	常に本人の希望を聞き、意向にあった入浴を行っている		拒否を希望の場合、状況に応じて時間を置くなどタイミングをみて楽しく入浴できるよう支援していきたい
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、生活リズムを壊さないよう本人に合わせた支援を行っている		本人のペースを大切にしたい支援を続けていきたい
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活リズムを尊重し、力を引き出し活かせるよう支援している		今後もシート(個別ケアマニュアル・アセスメントシート)等活用し、支援をしていきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向を取り入れ、本人の力に応じて所持したり一緒に買い物に行き自分で支払う機会を作っている		今後も本人希望時に買い物に出掛ける等、満足感を得られる支援をしていきたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、本人の状態に応じて、散歩や外食などの支援を行っている		本人の希望にそって外出できるよう支援を続けていきたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事前に計画を立て、家族との連携を図り、一緒に外出できる機会を作っている		職員の人員確保、家族の協力のもと、普段行けないところへの外出支援を続けていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、希望に応じて対応している		今後も家族の協力のもと、支援を続けていきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には笑顔で挨拶し、居室やリビングでコーヒー(お茶)を飲みながらゆっくりすごせるよう配慮している		今後も笑顔を忘れず、支援していきたい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が研修報告などで得た知識のもと、身体拘束のないケアに取り組んでいる		今後も研修や勉強会などに参加し、正しい知識を理解、拘束のないケアを続けていきたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出るときは職員が付き添い、見守り、自由に出入りができるように努めている		今後は鍵をかけずに過ごせる様、職員間で話し合い、ケアにあたっていきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して職員は利用者と同じ空間で過ごし、いつも見守り、安全に配慮している		今後も安全に配慮して支援を続けていきたい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、利用者の状況にあわせて、保管、管理を行っている		今後も安全に注意しながら見守り支援していきたい
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アクシデントの報告、記録は全員が目を通せる様にしている		随時、予防について話し合い、検討していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時での連携等を常に話し合い、救急救命法等消防署の協力を得て、勉強会を実施している		今後も続けていきたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時での通報、連絡方法を目のつく所に張り、スタッフ全員が理解できるようにしている		地域の方との協力体制を作れる様、働きかけていきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりうるリスクを家族にも説明している		抑圧感のない生活を送って頂く為に、家族と話し合いながら安全に配慮していきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの状況の変化をスタッフが把握し、記録している		スタッフ全員が情報を共有し、すぐに対応できる様努力を続けていきたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の目的、用法等をいつでも見れるようにし、服用時は側において確認する		適切な服薬支援を心がけていきたい
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品を取り入れ、自然排便できる様取り組んでいる		一人ひとりの便通パターンを把握し、便秘にならない様、支援していく
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や意向を把握し、見守り、一部介助にて行っている		今後も利用者の力を引き出しながら、見守り支援していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の水分摂取量が一目でわかる様記録し、献立に配慮している		一人ひとりにあった支援を工夫していきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	会議等でスタッフ全員が感染予防に取り組み、常にマスク着用、消毒、うがい等を意識づけしている		今後も続けていきたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾の消毒を毎日行い、食材の新旧をわかりやすくし、整理整頓に心がけている		常に冷蔵庫、冷凍庫を点検し、食材の状態を確認していく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じた飾りや花を植え、明るい雰囲気作りに努めている		今後も続けていきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の立場に立って考え、時には意見を取り入れ、居心地よく生活できるよう心がけている		全職員が日常的に注意を払い、続けていきたい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日光浴ができる様、日当りの良いところに椅子を設置し、いつでも座っていただける様に工夫している		利用者同士自由に過ごして頂けるよう、空間作りを工夫していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を取り入れ、馴染みの家具などを置き、その人らしく過ごせるよう努めている		家族とも話し合い、個別に応じた工夫をし、居心地良く生活できる様、支援していきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居質、トイレ等に換気扇を設置、利用者の様子を見ながら、温度調節を行っている		一人ひとりの状況、状態を把握し、その都度配慮していく
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の活動性を維持するため、手すり等の設置場所を工夫している		安全確保、自立に向けて支援していく
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を招く環境要因に対し、速やかに対応できる様、心がけている		今後も続けていきたい
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴ができる様、ベンチの設置、手すり、スロープを活かして散歩をするなど工夫している		今後も続けていきたい

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員が業務に追われることなく、余裕を持ってケアを行うことにより、ホームは利用者にとって居心地の良い生活空間となっている。